



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議(第8回)

東京2020大会に向けた 文化関連事業の取組

平成30年12月21日

外務省

東京2020大会に向けた文化事業の実施

1. 2018年の海外日本文化紹介事業

ジャポニスム2018（フランス）、ロシアにおける日本年

2. 2019年の海外日本文化紹介事業

米国と東南アジアでの事業、日英文化季間

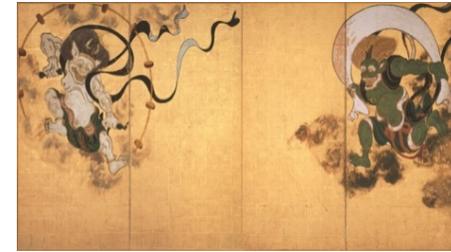
3. 2020年以降も継続的な文化事業



平成30年12月現在、外務省は**1,418件**、国際交流基金は**1,056件**を認証済み。
引き続き、海外での文化プログラムを推進。

- ・ 在外公館による文化事業
- ・ 国際交流基金による文化事業

- ◆ 2018年7月から2019年2月まで、フランスのパリを中心に展覧会、舞台公演、日本映画上映等様々な文化事業を大規模に実施。柔道企画の他、日本の祭りや和食・日本酒紹介などの企画を通じ、地方の魅力や日本製品の発信も実施。
- ◆ 2018年12月現在、約137万人の来場を記録。



『琳派展』国宝〈風神雷神図屏風〉
俵屋宗達筆 京都・建仁寺蔵 江戸時代



「チームラボ 境界のない世界」展



ジャポニスム2018開会式
(河野大臣とニッセン仏文化大臣)



皇太子殿下の御点灯により
ライトアップされたエッフェル塔



若冲展（皇太子殿下御視察）



縄文展（安倍総理視察）



「地方の魅力ー祭りと文化」企画

- ◆ 2018年ロシアにおいて、「ロシアにおける日本年」として政治、経済、文化、科学、教育、青年、スポーツ、自治体間交流、その他の分野において日本を紹介する計500近くの行事を広く実施。
- ◆ 文化事業では、5月のモスクワでの両首脳が出席した「ロシアにおける日本年」「日本における日本年」開会式の開催の他、松竹大歌舞伎近松座訪露公演（2018年9月）や、「江戸絵画名品展」（2018年9～10月）、流鏝馬、モスクワ等全8都市における日本映画祭（2018年9～2019年3月）等を実施。
- ◆ 「ロシアにおける日本年」・「日本におけるロシア年」の閉会式は2019年6月のG20大阪サミットの際に実施することで両首脳が合意。2019年も閉会式までの間、オペラ「夕鶴」や日本舞踊・バレエ「信長」のロシア公演などが実施予定。



モスクワにおける日本文化フェスティバル
J-FEST 2018 Summer



日本舞踊・バレエ公演「信長」



「江戸絵画名品展」
(モスクワ:プーシキン美術館)



「日本年」・「ロシア年」開会式
(安倍総理とプーチン大統領)



開会式における鏡開き式



モスクワにおける小笠原流流鏝馬

米国での日本文化紹介

メトロポリタン美術館での「源氏物語の世界」展，ナショナル・ギャラリー・オブ・アートでの「日本美術に見る動物の姿」展等，NY，ワシントンDC等を中心に，全米各地で日本の伝統文化からポップカルチャーまでを幅広く紹介。

東南アジアでの日本文化紹介

2013年の日ASEAN首脳会談で合意された「文化のWA」で実施してきた，日本語パートナーズによる日本語普及，日本とASEAN諸国の共同の芸術活動（舞台，音楽等），スポーツ等これまでの成果を紹介。

日英文化季節

大英博物館での「漫画展」，「奈良仏像展」，ロンドンでのジャパン祭り等，2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて，英国各地で日本文化を幅広く紹介。

2020年以降も近年の海外での文化事業で培った人脈・経験を活かし、 日本文化紹介事業を推進

在外公館（全世界で223公館）

◆平成29年度は914件、平成30年度は約1,100件（見込み）の在外公館文化事業を実施。

（例）●ロンドンにおける「第10回ジャパン祭り」（トラファルガー広場における総合的な日本文化発信事業）

●北京における「野村万作・野村萬斎狂言公演」（日中平和友好条約締結40周年記念事業）

◆平成31年度は、東京2020大会でホストタウンとなる自治体の魅力発信や、東京2020大会への注目が集まる様々なスポーツイベント等の機会を活用した日本文化紹介事業のための予算を新たに要求中。



ロンドン「第10回ジャパン祭り」



北京「野村万作・野村萬斎狂言公演」



マレーシア日本映画祭2018



ベトナムで指導する川崎フロンターレ指導者

国際交流基金の文化事業

オリパラに向けた機運醸成のため、日本文化の魅力の海外発信や双方向の国際文化交流を推進

（例）●JFF(Japanese Film Festival)アジア・パシフィック ゲートウェイ構想

平成30年度は、最新の日本映画を中心に約100作品を、アジア・大洋州地域等の14カ国・50都市で上映、約15万人の観客動員（見込み）。

●日本サッカー協会・日本プロサッカーリーグとの連携

平成26年度からアセアン10か国及び東ティモールを対象にサッカーによる国際交流事業を実施。平成31年度より混成チーム「ASIAN ELEVEN」を結成し、日本他で試合を実施予定。